



## 西川りゅうじん

Reugene Nishikawa

### 美味しいお料理とお酒が元気の素 贅沢は「敵」じゃなくて「素敵」だ！

世界恐慌に突入とも言われる現在、日本国内でも景気の良い話はあまり耳にしません。先行きへの不透明感から、外で食事するのを控えようという人もいるようです。そんな中、「チェンジはチャンス！今こそレストランへ」と言う西川さんに、今時ならではのレストランの楽しみ方、そしてプレステージクラブの魅力などを伺いました。西川さんによれば“恐慌突破”の秘策は美味しいお食事にありそうです。

#### 疾風に勁草を知る

— この経済危機に対して西川さんはどのようにお考えですか。百年に一度の経済危機だとテレビなどでもあまりに言い過ぎですよ。レストランに行くのも買物するのも、今や贅沢することが罪悪のようになってしまっていますが、お金は天下の回り物です。みんなが家にこもって、外で食事もせず、お酒も飲まなくなったら、経済全体がどんどんしぼんでいき、さらにみんな自分で自分の首を絞めることになるわけですよ。不況だ、不況だと不景気な話ばかりするのを私は「不況活動」と呼んでいます。そういう「不況の布教活動」はストップしなければなりませんね。何でも不況のせいにする卑怯者は「不況者」と言っています。「この不況者めが！」とそういう輩は日本中、世界から吹き飛ばすべきです。

— 西川さんはどのように吹き飛ばしていらっしゃるのですか。サブプライム危機以降、2008年くらいから、なるべく街に出て、レストランで外食したりするように心がけているんです。なぜなら、「人の行く裏に道あり花の山」と言うように、多くの人の逆を行くとお花がたくさん見つかるわけです。今、外に出れば、何が元気かひと目で分かるじゃないですか。「疾風に勁草を知る」という言葉の通り、厳しい風の中でも強い草は倒れずに立っているんです。厳しい時代だからこそ、街に出れば、何が元気なのか、何が根強く人気があるのかよく分かります。本当に価値の高いもの、そして、これから人気が出つつあるものも見えます。そこには次の変化の芽が出ているんです。だから、今こそレストランに行き、今こそ贅沢すべきなんです。

— 同じお金を使うにしても、いっそう価値が高まりますね。ご夫婦やカップル、ご家族やご友人と、今こそ本物の料理、本物のお酒を味わうべきでしょう。本物の価値に触れば、元気が湧いて来ますからね。日本はまだまだ捨てたものではありません。金融がアメリカやイギリスに比べて遅れていたのも、結果的には幸いでした。言わば、周回遅れのファースト・ランナーですよ。円高もマイナス面だけではありません。日本経済の底

Profile: マーケティングコンサルタント。商業開発研究所レゾン所長。1960年生まれ。兵庫県出身。一橋大学経済学部・法学部卒業。米國フォーチュン誌でもマーケティングの達人と評されるなど、その分析力と企画力には定評がある。80年代には「ウォークマン」の販売促進、90年代には「ジュリアナ東京」のPRなどで注目を集めた。昨今では、「モリゾーとキッコロ」の「愛・地球博」キャラクター選定、「つくばエクスプレス」沿線PR、鹿児島県産焼酎のブランド化を手掛けた他、「六本木ヒルズ」「上海環球金融中心」のコンセプト立案に参画。東京工業大学、早稲田大学の非常勤講師、拓殖大学客員教授を歴任。「ようこそ！ジャパン」の観光庁「観光立国推進戦略会議」WG委員。2010年開業予定の「成田新高速鉄道」沿線まちづくりスーパーバイザー。「せんとくん」の平城遷都1300年記念事業協会評議員。また、アッシー、メッシー、ジモティといった流行語の造語でも知られる。

力が評価されているから円高になっているわけです。輸出産業は厳しいですが、輸出産業だけが産業ではありません。それが証拠に、歴史的に見ても、円高の後にはたいてい日本の景気は良くなっているんです。マイナス面ばかり見るより変化のプラス面を見るべきです。

— 円高になれば、高級な輸入食材やワインなど、美味しいものもリーズナブルになるわけですね。

そう。円高還元でひらまつのレストランでも高級ワインであればあるほどお得ですね。人気のレストランに行く人も減るなら、予約も取りやすくなってさらにラッキーです。今こそ、贅沢は敵ではなく、贅沢は素敵なんです。ひらまつグループのお店に「オーベルジュ・ド・リル トーキョー」がありますが、何もかも素晴らしいですね。いつもうかがうと、元気をいただけます。それに、普段、仕事で忙殺されてはったらかしているパートナーへの罪滅ぼしにも最高の場所になっています(笑)。

## 危機が訪れたらひらまつのお店に行け！

— 西川さんはプレステージクラブのメンバーでもいらっしゃいますが、当クラブにどういった魅力や利点を感じになりますか。一生の思い出に残る時間を過ごすことができる点ですね。家族との食事も、また、お得意先を接待したりする場合などにも、とても喜んでいただけます。共有する時間を輝かせてくれるんです。人というのは、素敵な空間や、美味しいお料理とお酒、そして心のこもったサービスで、まったく気分が変わるものです。難しいビジネス上の交渉事もその場の雰囲気ですべて結果が異なることもあります。それに、夫婦や恋人同士には“レストランがさすがい”になります。「危機が訪れたらひらまつのお店に行け！」ですね(笑)。

— ひらまつグループには、さまざまなお店がありますね。

私は、基本的にはレストランというのは1つのお店に通うべきものだと思います。でも、ご一緒する方やエリアによって、いろいろな選択肢があったほうがいいですね。そういう点で、このプレステージクラブは、ひらまつグループのどのお店に行っても同じホスピタリティを受けられるので安心です。それに、ひらまつグループは、ひとつの大きな家族のような感じですね。まさに“メゾン”というか、大きな家みたいです。その中に、ひらまつ、ASO、ポール・ポキユーズといった兄弟がいて、そこへ美味しいお料理をいただきに時々お邪魔するといった気分ですね。だから、様々なTPOに応じて、使い分けられるのが、楽しいし、便利なんです。

## メンバー同士の交流で元気をもらおう

— 2009年1月に行われた第1回メンバーズパーティにも参加されましたが、メンバー同士の交流はどうか。

ひらまつグループのパーティなどで何度かお会いすると、顔見知りも増えて来ますし、だんだん親しくなって来る方もいます。美味しいものをいただきながらお話しすれば、盛り上がりますし、元気になります。様々な異なる分野の方との会話は刺激になりますね。いろんな話をすると、不思議なもので、どこかでご縁



がつながったりします。そういった中から交流が広がり、ビジネス上のプラスになることもあるでしょう。メンバーの中では、アラフォーの女性はパワフルですし、男性はアラカンが元氣ですね

— アラカン？

「アラウンド還暦」です(笑)。それに、ひらまつ常連同士でゴールインしたカップルもいらっしゃるし、プレステージクラブが素敵な大人の男女の出会いの場になるかも知れませんがね。

— それは大きなメリットになるかもしれません(笑)。

実は、私とパートナーとの最初のデートは代官山のレストランテASOだったんです。

— そうなんですか。どうしてASOを最初のデートの場所を選ばれたんですか？

雰囲気も素敵だし、お料理も美味しいですからね。それに、オープンして間もない頃だったので、彼女がまだ他の男性に連れて行ってもらったことがないだろうと思ってASOを選びました。たいてい、女性の方がお店をよく知ってますからね。来たことがあって知らないフリをする女の人もいますけど(笑)。でも、なぜかメニューを知っていたり、お店の人に挨拶されていたりすると、その瞬間に男は固まります(笑)。アラフォー女性に連れて行ってもらう年下の男は気楽ですが、私のようなアラゴ(アラウンド50)世代は男がリードするのが当然ですからね。そんな自分自身の悲しい体験から“アッシー”“メッシー”という言葉もできたんです。

— そして、そのデートは成功だったわけですね。

お陰様で。もう長い付き合いですからね。でも今も彼女がおかんむりの時は、ひらまつのレストランにお連れして、お怒りをしずめていただいています(笑)。

— 大変な時はレストランに行けばいいわけですね？

そう。大変とは“大きく変わる”ということです。プライベートもビジネスもチェンジはチャンス！今こそレストランに行くべきです。恐慌を強行突破する“恐慌突破”の秘策は、美味しいお食事とお酒にあるんです。それが、心の中の「不況者」を退治する一番のお薬ですよ。